



WDIAI

Women Dental Academy for Implantology

「リモートでも、集い、学び、つながる」

WDIAI 第 10 回定例会

抄録/講演プログラム

◎日時:2021年7月4日(日) 10:00~13:15

◎オンラインセミナー

第10回 WDAI 定例会プログラム 【2021/7/4】

	第10回 WDAI定例会プログラム	演者
10:00	定例会 開催のご挨拶	山口葉子先生
	会長挨拶	田中道子先生
10:05	会員発表1:「当院のデジタルインプラント治療におけるチームアプローチ」	ザルスキー泰子先生
10:25	会員発表2:「インプラント補綴治療における術前口腔機能検査」	寺澤真祐美先生
10:45	会員発表3:「Comprehensive Dental Treatment of Bite Collapse」	田中志歩先生
11:05	休憩	
11:10	特別講演:「デジタル治療 顔貌主導のインプラント修復～デジタル治療の到達点と今後の展望」	上浦庸司先生
12:10	定例会 終演のご挨拶	吉武博美先生
12:10	WDAI 2021年度定期総会	
12:25	休憩 (お飲み物をご用意します)	
12:30	懇親会 (開演挨拶)	
	(乾杯)	
	※意見交換、演者への質問、フリートーク、SAKURAムービー放映など	
13:15	終了のご挨拶	

※ 記載時間、発表順番が変更になる場合もございます。

WDAI 会長ご挨拶

「第10回 WDAI 定例会によせて」

平素よりWDAI 活動へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。
WDAI はこの 2021 年で発足から 5 周年を迎えます。
会員数も徐々に増えて 150 人を越える会に成長しました。

2020 年度には、大阪地区、甲信越地区の 2 つの支部も立ち上がりました。

今まですべて対面での活動でしたが、新型コロナの影響で全てのイベントが online での開催になりました。online でやってみてその長所も見えてきました。

- * 交通費や宿泊費が必要ない
- * 移動時間が不要
- * 職場でも家庭でも参加できる
等々。

歯科治療の時代の流れは、デジタル化に進んでいます。
若い皆様のデジタルへのスムーズな対応力は素晴らしいものがあります。この WDAI が継続するためには若い仲間の力がますます必要です。

ぜひ皆様の力を結集しさらなる発展を祈念いたします。

WDAI 会長 田中道子

WDAI 会長



田中 道子
Tanaka Michiko

歯科医師
医療法人社団道永会
田中歯科鎌倉（神奈川県）

【所属学会、団体、資格等】

- 日本口腔インプラント学会
- 日本歯周病学会
- ITI Fellow
- デンタルコンセプト 21 理事
- Clinical Research Group
- WDAI 会長

WDAI 第 10 回定例会
2021 年 7 月 4 日(日)

実行委員長ご挨拶

新型コロナウイルス感染症の影響を受けておられる皆様には、心よりお見舞い申し上げます。このたびのパンデミックは、社会・経済に甚大な影響を与えています。今なお、ウイルスとの戦いが進行中であることは、ご存知の通りです。従いまして本定例会も前回同様、WEB 形式での開催とさせていただきました。一刻も早く感染症の拡大が収束を迎え、すべての人々の生活が、平常に戻ることを祈念いたします。

さて、定例会は今回で 10 回目を迎えることができました。これまでの間支えて下さった会員および関係者の皆様には、改めまして感謝申し上げます。

第 10 回の節目となる今回のテーマは、「デジタル治療」です。現在、あらゆる分野でデジタルトランスフォーメーションと呼ばれる、デジタル技術による変革が進められています。歯科分野も、例外ではありません。とりわけインプラントは、デジタル技術との相性が良いとされ、その活用が進んでいます。特別講演には、デジタルインプラントの第一人者である、上浦庸司先生をお迎えしました。先生には、デジタルデータの活用について、症例を交えてご講演いただきます。

本定例会が皆様にとって有意義な場となり、またデジタル治療発展の一助となれば幸いです。

WDAI 第 10 回定例会
実行委員長 山口葉子



山口葉子
Yamaguchi Yoko

歯科医師
松本歯科大学
歯科補綴学講座(長野県)

【所属学会、団体、資格等】

- (公社)日本口腔インプラント学会
専門医・指導医
- (公社)日本顎顔面インプラント学会
- (一社)日本歯科理工学会
- WDAI 理事

準備委員長ご挨拶

WDAI 定例会、今回は記念すべき10回目を迎えました。前回からコロナ禍で Web 開催になり新しい時代の到来を感じております。仕事と家庭を両立していらっしゃる皆様にとって、Web 開催のメリットがおおいにあることを願っております。このような変化の時代ですが、Web で全国の皆様と繋がりに一緒に学んでいけることを願っております。

今回はデジタル治療のエキスパートである上浦庸司先生 (ITI フェロー) をお招きし、「デジタル治療顔貌主導のインプラント修復～デジタル治療の到達点と今後の展望」をテーマに最前線のお話をさせていただきます。

また、会員発表には3名の先生方にご発表いただく予定です。

- (1) ザルスキー泰子先生は「デジタルインプラント治療におけるチームアプローチ」と題し、多職種連携で仕事をする歯科技工士としてのはたらきをご講演されます。
- (2) 寺澤真祐美先生は「インプラント補綴治療における術前口腔機能検査」と題し、今注目されているオーラルフレイルの予防についてご講演されます。口腔機能検査は診療報酬算定可能となり、まさにホットな話題です。
- (3) 田中志歩先生は「Comprehensive Dental Treatment of Bite Collapse」と題し、咬合崩壊した症例を矯正専門医・歯科衛生士・歯科技工士と共に包括的な治療を行った症例についてご講演されます。

いずれも、大変興味深い内容です。きっと、皆様の臨床のヒントになることと思います。どうぞ、自宅でリラックスしてお気軽にご参加いただければ嬉しく思います。

WDAI 第10回定例会
準備委員長 吉武博美



吉武 博美

Yoshitake Hiromi

歯科医師

医療法人社団伊東会

伊東歯科口腔病院(熊本県)

【経歴】

- 熊本市民病院・伊東歯科
医院厚生労働省臨床研修
- 熊本大学医学部附属病院
歯科口腔外科
- (医)伊東会伊東歯科口腔
病院
- ドイツフライブルク大学顎
顔面外科

【所属学会、団体、資格等】

- 日本口腔インプラント学会
専門医
- 日本歯科麻酔学会専門
医・認定医
- 日本障害者歯科学会専門
医
- 日本有病者歯科医療学会
指導医
- WDAI 理事

当院のデジタルインプラント治療におけるチームアプローチ



ザルスキー 泰子
Zaluski Yasuko

歯科技工士
医療法人社団伊東会
伊東歯科口腔病院(熊本県)

I.目的:当院のインプラントデジタル治療は歯科医師,歯科技工士,放射線診断医,診療放射線技師,歯科衛生士,看護師による多職種連携のチームアプローチで取り組んでいる。技工部では3名の日本口腔インプラント学会インプラント認定技工士を中心に,多職種と連携する事でそれぞれ専門分野の情報交換をする事ができ,技工士としての専門知識を発揮している。歯科技工士はインプラント治療のシミュレーションから最終補綴物製作まで携わるため多職種の連携が非常に重要になる。その状況について報告する。

II.方法の概要:当院におけるインプラントデジタル治療は以下の流れで行なっている。

- ①精密印象採得:歯科衛生士
- ②スキャンテンプレート製作:技工部
- ③スキャンテンプレート装着,CT撮影:放射線部
- ④シミュレーション:歯科医師,放射線診断医,放射線部
- ⑤シミュレーション結果を元にサージカルガイド製作:技工部
- ⑥手術:歯科医師,歯科衛生士,看護師
- ⑦プロビジョナルレストレーション製作:技工部
- ⑧最終補綴物作製(口腔内スキャナーを使用):歯科医師,技工部
- ⑨デジタル技工(CAD/CAM使用):技工部

III.考察および結論:当院では,多職種によるチームアプローチでインプラントデジタル治療を行なっている。多職種で連携をとりインプラント治療のシミュレーション後に手術を行うことで,より安全で確実なインプラント治療が実現でき患者の高い満足を得ている。術前に口腔内スキャナーで得たデータとCTデータを重ね合わせる事で,様々な角度から術後のイメージを作ることができ,患者への補綴治療の説明に役立てることが出来る。患者,歯科医師,歯科衛生士,歯科技工士による連携をとり,意見交換することで満足していただける補綴物を製作することが出来ると考えられる。

一般的な現状として歯科技工士の人手不足,長時間労働が叫ばれている中,当院のデジタルインプラント治療においては技工部のデジタル化を進める事で作業時間短縮,生産性向上が可能になってきている。さらに高い患者満足度を得ることができ,インプラントデジタル治療に携わるメンバーのモチベーションも向上してきている。長時間労働の問題改善により,これが「働き方改革」にもつながっていると考える。

今後は3Dプリンターを導入し,さらにデジタル化を進めていきたいと考えている。

【所属学会、団体、資格等】

- 日本口腔インプラント学会
認定歯科技工士
- WDAI 会員

インプラント補綴治療における術前口腔機能検査

I 目的:高齢化率が 27%を超えるわが国において、オーラルフレイルの予防は重要である。オーラルフレイルの 4 段階中の 3 段階目である口腔機能低下症は歯科診療所に対応できるとされ、日本老年歯科医学会の基本指針では、口腔機能低下の適切な診断、管理と動機づけを行うことで、さらなる機能低下の重症化を予防し、口腔機能を維持、回復することが可能であり、そのためには中年期からの口腔機能低下症の診断と管理を適切に実施する必要があるとしている。しかし、インプラント補綴治療における口腔機能検査・管理の実施報告は少なく、インプラント補綴治療を必要とする患者の口腔機能の実態は明らかになっていない。そこで本研究では、インプラント補綴治療を必要とする患者に対して術前口腔機能検査の行い、口腔機能の実態を明らかにすることを目的とした。

II 対象および方法:2018 年4月から 2019 年9月の間に本院高齢者歯科を受診した外来患者のうち、オーラルフレイルの 2 段階目である自覚症状(滑舌低下、わずかなむせや食べこぼし、噛めない食品の増加など)があり、機能検査の同意が得られた患者 130 名(以下、対照群)、およびインプラント補綴治療前の患者のうち、機能検査の同意が得られた患者 16 名(以下、インプラント術前群とする)に対して、口腔機能検査(口腔清掃状態、口腔乾燥状態、舌圧、咬合力、舌口唇運動機能、咀嚼機能、嚥下機能)を行い、検査結果を比較した。(本学歯科病院臨床試験審査委員会承認・承認番号 DH2018-032)

III 結果:インプラント術前群は若年層から中年層が多く(32 歳~77 歳、平均 62.5 歳)、対照群は中年層から高齢層であった(43 歳~93 歳、平均 77.0 歳)。全ての検査項目において、対照群と術前群間に大きな差異は認められなかった。術前群の 16 名中7名が口腔機能低下症であり、低下症でなかった被験者においても舌口唇運動機能や舌圧などの機能低下が認められた。

IV 考察および結論:

口腔機能検査を行うことで、インプラント術前の患者の口腔機能の客観的評価が可能となった。インプラント補綴治療に際しても口腔機能検査を実施し、患者の口腔機能の状態を把握する必要があることが示唆された。



寺澤 真祐美

Terazawa Mayumi

歯科医師

昭和大学歯学部

高齢者歯科学講座(東京都)

ラウムデンタルクリニック(神奈川県)

【経歴】

- 昭和大学歯学部卒業
- 昭和大学大学院卒業
- 昭和大学歯科病院勤務
- ラウムデンタルクリニック勤務・昭和大学兼任講師

【所属学会、団体、資格等】

- 昭和大学兼任講師
- 日本口腔インプラント学会所属
- 日本老年歯科学会認定医
- WDAI 会員

Comprehensive Dental Treatment of Bite Collapse

I. 目的: 長年の不適合修復物、及びクリーニング不足から上下左右の臼歯部の機能を失いそれに伴う顎位の低下及び咬合不正が生じた症例に対し、セファロ分析をおこない理想的な位置でインプラント埋入をし、その後矯正をおこなったことで顎位の回復、咀嚼機能の改善をはかり良好な結果が得られたので報告する。

II. 症例の概要: 68歳 女性

主訴: 他院にてひどい歯周病といわれた人とお話できない. 良く咬めない

既往歴: 2004 子宮癌, 大腸癌, 腸閉塞 → これらは完治

2010. 軽度うつ(レンドルミン錠, コニール錠内服) → 現在は服用していない

現病歴: 他院にてひどい歯周病なので抜けるまでこのままでも応急的な処置を繰り返し, 2015.7 来院

現症: 上下左右4番から7番までの不適合修復物

歯周ポケットは深くないものの、全顎にわたって出血、排膿がみられる

顎位の低下、不適切なガイド、不正咬合それにともない、全顎にわたり歯牙の動揺もみられる

診断名: 咬合支持が得られていないための不正咬合

初期治療終了後セファロ分析をおこないセットアップ模型を作製し、理想的なインプラント埋入ポジションを決定する。それを現口腔内に反映させたステントを作り、CT撮影をおこなった

2015.12 35.36.46.47 インプラント埋入

24.25 GBR

45.46.47 サイナスリフト

2016.05 34.35 インプラント埋入

44.45.46 GBR

2016.11 44.45.46 インプラント埋入

2017.03 矯正開始

2020.01 最終補綴作製、セット

III. 経過: 最終補綴装着から、2週間、1か月、2か月、その後は3か月ごとにメンテナンスを行なっている。

今のところ大きな変化がなく良好な結果を得ている。

IV. 考察および結論: 包括的な歯科治療を行なったことで、審美性の回復及び機能回復ができたことは非常に有益であった。

治療を進めていく中で、私の課題もクリアになり今後の臨床に繋げていけるように更なる努力が必要である。

私一人でこなせる治療には限界があり、それぞれ専門的な知識が深い矯正医、歯科衛生士、技工士とともに治療にあたることは、対応できる臨床の幅が広がると確信している。

会員発表



田中 志歩

Tanaka Shiho

歯科医師

医療法人社団道永会

田中歯科鎌倉 (神奈川県)

【経歴】

- 神奈川歯科大学卒業
- 東京歯科大学大学院卒業
- 医療法人社団アイ・ティー・アイ・ディーデンタルクリニック勤務
- 医療法人社団道永会田中歯科鎌倉勤務

【所属学会、団体、資格等】

- 歯学博士
- 日本口腔インプラント学会所属
- 東京 SJCD 会員
- WDAI 会員

WDAI 第 10 回定例会
2021 年 7 月 4 日(日)

デジタル治療 顔貌主導のインプラント修復～デジタル治療の到達点と今後の展望

昨今、口腔内スキャナーは各社から販売が開始され、スキャナーの大きさ、計測時間、計測精度など向上が図られている。演者らは口腔内スキャナーを用いて、インプラント治療回数・期間の削減・短縮を試みている。

今回、1)同日のデジタル印象とCBCT (cone beam CT)撮影、2)3Dプリンターによるガイドの作製、3)インプラント埋入と同時のデジタル印象、4)プロビジョナル修復による早期荷重の概要について実際の機器・材料を用いて詳細に説明する。

2018年3Dカメラ導入により、下記ラインアップにてかねてから臨床家の念願であった顔貌主導のインプラント修復治療が可能となった。症例を交えて臨床活用のステップを解説する。

必要なデータと機器:

- 1) 3D 顔貌 (3d カメラ Bellus 3D)
- 2) 3D 顎骨 (モリタ CBCT、FDP-17)
- 3) 3D 歯列 (3Shape Trios3)
- 4) 3D 画像作成ソフトウェア (ストローマン CARES Visual)

特別講演



上浦 庸司

Kamiura Yoji

歯科医師

医療法人社団

上浦歯科クリニック(北海道)

【所属学会、団体、資格等】

- 歯学博士
- 北海道大学歯学部 臨床教授
- ITI セクションジャパンコミュニケーションオフィサー
- ITI Study Club 北海道 1st ディレクター
- ITI Fellow

WDAI 第 10 回定例会
2021 年 7 月 4 日(日)

WDAI 女性歯科インプラントアカデミー LINE@アカウント 情報配信開始！

下記 QR コードでお友だち登録いただきますと、WDAI からのイベント情報などが届きます。

注記) LINE のお友だち登録と、WDAI 会員登録は異なります。ご入会希望の方は、WDAI 事務局までお問合せください。

WDAI オフィシャルサイト www.wdai.jp / eMail : info@wdai.jp / tel 03-3527-3890



WDAI 女性歯科インプラントアカデミー

LINE@

×

@zmp2999w

うれしい情報をLINEでお届け!

LINEの友だち追加から
ID検索またはQRコードで登録してね♪

© LINE





【予告】

次回、WDAI 定例会 開催予定

開催日：2022年2月23日(水・祝)

開催地：オンラインセミナー

申込先：WDAI ホームページより

※会員発表の募集の受付を開始いたします。

ご希望の方は8/31までにWDAI事務局へ。info@wdai.jp

①ご氏名、職業(Dr. / DH / DT)、e-mail、携帯番号 ②勤務先名、

③演題、サマリー100字程度。